

大船渡の観光大使

つばき娘 & つばきムスコ

大船渡の観光を全国に発信する3人のつばき娘が任命されました。今年にはつばき娘の男性版「大船渡つばきムスコ」も任命されました。初代つばきムスコに任命されたのは大船渡市のマスコットキャラクターで「自称・男の子」のその名も「おおふなトン」。「震災から立ち直る」という願いが椿の花に宿って生まれたというおおふなトンは、頭に市の花である椿、お腹には大船渡が有数の水揚げを誇るサンマという大船渡の魅力が詰まったゆるキャラです。

(4/30 ニュースエコー)



コラボで新発売

海鮮せんべい汁 磯味

八戸市や、岩手県北地方の郷土料理として知られる「せんべい汁」のコラボレーション商品が誕生しました。海宝漬で知られる釜石市の中村家と南部せんべいのメーカー二戸市の岩手屋そして、岩手県産の3社が共同で開発したのは「海煎せんべい汁 磯味」です。中村家がホタテの出汁と貝柱の入ったスープ造りを担当。岩手屋が作った・汁に入れる「かやきせんべい」には、乾燥ワカメが練り込んであります。このコラボレーション商品は、岩手屋の直営店や県内のスーパーなどで販売され、今後、「いわて産品」を扱う全国のアンテナショップにも並ぶということです。(4/30 ニュースエコー)



北里大が「苦渋の決断」

三陸キャンパスから撤退表明

北里大学は大船渡市の三陸キャンパスを事実上、撤退する方針を表明しました。大船渡市三陸町越喜来の北里大学海洋生



命科学部三陸キャンパスは、津波で学生のアパートが流されるなどしたため閉鎖となり、およそ600人の学生は神奈川県相模原市のキャンパスに移っています。早期再開を求める地元からは、2万6000人を超える署名が大学に提出されていましたが、北里大は「苦渋の決断」として「拠点を相模原キャンパスにする」と表明しました。入学志願者の確保や財政面を検討した結果だとしています。北里大は三陸キャンパスは学生の研究や実習の場として活用する方針です。(5/2 ニュースエコー)

沿岸地域の復興支援

「移動キオスク」営業開始

震災で被災した沿岸地域の復興支援として、JRの駅などを巡る巡回・移動式の店舗、「移動キオスク」が営業を始めました。2日は出発セレモニーが大船渡市のJR盛駅で行われました。この専用販売車は、「タルトタタン+キオスク」と呼ばれ宮古駅、釜石駅、盛駅などの鉄道拠点やBRT=バス高速輸送システムの駅を巡回。タルトタタンのケーキや焼き菓子、そして飲み物などを販売します。この「移動キオスク」でしか販売されない限定商品も。ベルギー製のワッフルマシンで、その場で焼き上げる「いなほワッフル」です。3種類のワッフルが周囲に甘い香りをただよわせ、通りかかった人たちが買い求めていました。(5/2 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122